

所報



巻頭言

学校組織マネジメントと学校評価

広島大学大学院
教育学研究科准教授 林 孝



「心身ともにたくましく、思いやりのある」子どもたちの育成に、広島市では「まちぐるみ」による教育の推進・充実を目指している。その拠点となる学校には、「特色ある開かれた学校づくり」が求められる。そこで、そのような学校づくりのプロセスを、学校組織マネジメントの視点から素描してみたい。

第一に、学校の「ある姿」(現実)を、学校のもつ条件性の自己点検・評価から明らかにする。その際、学校のもつ条件性に対しては、肯定的な関心から、学校のもつ長所としての活用を意識化することが肝要である。第二に、学校の条件性を活かした長所に焦点化して教育活動を見直す。その際、「あれも・これも」は不可能だから、学校の「あるべき姿」(理想)を追求するなかでも、自校や地域等の実情を踏まえ、自校の学習活動に何を優先的に取り入れ、卒業生としての「ウリ」として何を期待するのか・できるのかを検討し、「ありうる姿」を明確にすることが重要となる。

そのような検討を通じて得られた教育活動を共有するなかで、第三には、学校に「学び」を重視する組織文化を確立し、教職員間に成長的・挑戦的な組織風土を醸成するよう、学校内部を開き、そのための仕組みづくりを継続する。そのような努力を通じて、教職員一人一人が学校としての明確な教育方針のもとに組織的・一体的な教育活動を展開する担い手として、学校の組織的な取り組みを代表する存在であることを体現していくことが必要とされる。第四には、学校の目指す教育目標の達成に必要なイン

テリジェンス情報、たとえば、「わが校」の教育目標や、その達成に向けての校内組織や運営の在り方についての情報を、また、その取り組みの成果やより一層の充実に向けての改革・改善の方策についての情報を発信し、学校の透明性の確保を図る。

そのための装置が学校評価システムである。自己評価・外部評価の取り組みを充実させ、そこで得られたデータに基づき、教育目標の達成や学校の改革・改善に忌憚のない意見の交流を図る。つまり、教職員・保護者・住民等の学校関係者間のコミュニケーション手段を実働させて、「特色ある開かれた学校」として、その存在価値・社会的認知を確保し、「まちぐるみ」による教育の推進・充実を目指していくことが期待されている。

そのためには、学校の教育活動の展開にあたり、教職員一人一人が、学校経営目標の示す方向を目指して、自己のもつ持ち味(専門性)と、他の教職員のそれとを合成して協働していくことを必要不可欠としている。力量のある教職員であっても、一人一人が自らの守備範囲で日々の実践をこなせばよいといった「炒り豆」状態の学校であれば、組織的な活動は推進できない。そうではなくて、学校組織の目指す方向性を見据え、自己の持ち味を活かして役割を遂行できる力量のある教職員が協働している「納豆」状態にある学校が必要とされているのだ。教職員には、そのような「納豆」の一粒として、学校の組織的な取り組みを代表する存在であることを期待したい。

もくじ

- 巻頭言P. 1
- 研修講座だより②P. 2
- 指導主事研究②P. 3
- テレビ会議システムの紹介P. 4
- 授業づくり支援室の利用案内P. 5
- 教育センターひろばP. 6

研修講座だより②

9月までに実施した研修(一部)の概要を紹介します。

食育に係る研修講座

主題「学校における食に関する指導の充実」

講座の概要

食育基本法の成立に伴い、平成18年3月に文部科学省より食育推進基本計画が出され、全国的に学校における食育の推進及び充実が課題となっています。

本講座は、学校における食に関する指導の必要性や、食に関する指導を充実させるための工夫や手だてについて理解を深めることをねらいとして実施しました。

実践発表と講義の内容及び指導者は次のとおりです。

○実践発表【平成16年～18年度の文部科学省事業：「学校を中心とした食育推進事業」において南区の比治山小学校・皆実小学校を中心校として行った実践】

〈指導者〉 広島市立比治山小学校 栄養教諭 三上 真由美
広島市立皆実小学校 栄養教諭 栗本 淳子

○講義【広島市の食育推進事業施策及び学校における食育の推進に当たってのポイントについて】

〈指導者〉 広島市教育委員会学校教育部給食保健課 主任技師 小園 佳美

＜学校における食育の推進に当たってのポイント＞

- ・ 各学校における食に関する指導の全体計画・年間指導計画を作成する。(「家庭・地域とともにたいけん食育」広島市教育委員会 2007 (P33～P41参照))
- ・ 食育推進委員会を設置したり、食育をテーマに校内研修会を実施したりすることで全教職員により食に関する指導の目標、内容を共有化する。
- ・ 給食試食会や参観日での食に関する指導、PTC活動を通して家庭への意識啓発を図る。また、外部講師として地域人材を活用して地域との連携を図る。等が挙げられました。



学校事務職員研修講座

主題「表計算ソフトを活用した業務の効率化と学校事務職員の実務の実際」

講座の概要

中央教育審議会では「学校の組織運営の在り方について」(平成16年12月)の中で、学校事務職員に期待することとして、「より効果的、効率的な事務処理を図り、事務執行や渉外などにおいて学校経営の専門スタッフとして中心的な役割を担うこと」を挙げています。

本講座は、効果的・効率的な業務を図るためのコンピュータ活用のスキルを向上すること、これからの事務職員の実務の在り方について理解を深めること、の二点をねらいとして実施しました。

実践発表の後には、「効率化したいと考える業務・実際に効率化した業務」というテーマで協議を行いました。

○実践発表・協議

〈指導者〉 広島市立亀山中学校 主任主事 谷井 哲
実践発表の内容は次のとおりでした。

○学校における事務職員の役割について

例えば、校長・教頭・事務・業務で総務部を構成し組織として動くように心がけるとともに、校長・教頭・各主任で行う月に1度の運営会議に出席することにより、学校運営・行事に積極的にかかわる。

○実務の効率化を図る目的について

何のために効率化を図るのか、効率化を図ったことでできる時間をどのように使うのか、といった見通しを立てる。(鍵の管理・ごみ分別収集に取り組まれた事例を紹介されました。)

○効率化を図る方途(表計算ソフトExcelの活用)について

Excelを使って効率化を図った例として、「校内備品配置図」「講師の勤務実績報告書」「文書受付簿」が提示され、作成の演習も実施しました。

その他にも「文書決裁処理票」の活用など、教職員全体の業務の効率化を考えた取り組みも紹介されました。

＜受講者の声＞

「学校運営、組織の仕組みを理解して効率化に取り組んでいきたい。」
「効率化でできた時間を学校の生徒のために使っていきたい。」
「いただいたソフトを自分の学校にあわせて活用したいと思う。」
「事務の効率化というのは、自分のできるところで、自分のレベルでいくらでもできるということがわかった。」

「学校経営に積極的に参画するための効率化である」という指導者の考えに共感する感想がたくさん寄せられました。

キャリア教育を進める

全国教育研究所連盟第18期共同研究より

教育センター主任指導主事 大下 恵子

全国教育研究所連盟とは、昭和23年に結成された、全国の教育研究所の連合体です。

平成16年度からの第18期共同研究では、『確かな学力』と『豊かな心』をはぐくむ新しい学校教育の創造をテーマに中国・四国地区の機関が研究を進め、3年間の研究の成果を『学校力が上がる 教師力が伸びる』(教育新聞社)として6月に出版しました。

その中の「豊かな心をはぐくむ教育課題への取り組み」の節から、広島市教育センターが担当した「キャリア教育を進める」の項の概略を紹介します。

キャリア教育は、「フリーター」や「ニート」と呼ばれる若者の存在や「社会的ひきこもり」の増加等を背景として、「学校教育と職業生活との接続」の改善に係る課題を克服する観点から、小学校から系統的、組織的な取り組みを実施することが必要です。そのねらいは、子どもたち一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てることです。そのため、子どもたち一人一人が夢や希望をもち、自己実現への意欲を高めていく生き方学習として推進することが求められます。実践に当たっては、各教科・領域にどのように位置付け、職業観や勤労観を深める教育活動を子どもたちの生き方にいかに結び付けていくかが課題となります。以下に三つの教育センターの取り組みを紹介します。

千葉市教育センター (<http://www.cabinet-cbc.ed.jp/>)

小・中・高等学校の連続性や一貫性に配慮した小学校からのキャリア教育モデルプランの作成

キャリア教育における発達課題を、

- ①「自己形成」(自分を知り、好きになり、自信をもち、生きることに向きに進むために必要な課題)
 - ②「関係形成」(人と人、人と社会、人と自然とのつながりやかかわりを身に付けるために必要な課題)
- の二つの視点からとらえ、小・中・高等学校の発達段階に応じて育てるべき資質能力をまとめています。

神奈川県立総合教育センター

(<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>)

「キャリア教育推進ハンドブック」の作成

各学校における系統的な取り組みを充実させるために、「キャリア諸能力に関する校種別マトリクス」の5領域10能力の学習プログラムに基づいて開発された全体計画や単元計画等を、校種ごとに例示しています。

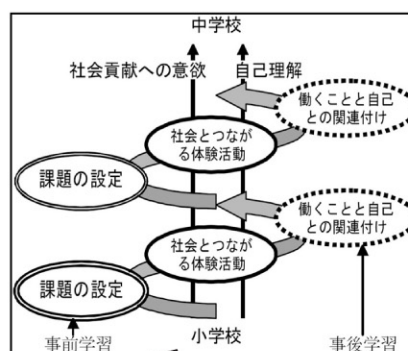
滋賀県総合教育センター(<http://www.shiga-ec.ed.jp/>)

小・中学校の円滑な接続と、体験活動等を一貫性の行事で終わらせないための事前・事後指導を取り入れた指導計画の充実・改善

「夢や希望をはぐくむキャリア教育の展開」をテーマに、

- ①小・中学校を一貫したカリキュラムづくり
- ②望ましい職業観、労働観をはぐくむ授業の在り方
- ③「社会とつながる体験活動」が、小・中学校を一貫したキャリア教育の軸として成立するための要件について追究しています。

②の「望ましい職業観・勤労観をはぐくむ授業の在り方」では、小・中学校を一貫して「社会貢献への意欲」や「自己理解」を蓄積していけるような指導の在り方を次のように構造的に示しています。



キャリア教育の学年別目標に則した「社会とつながる体験活動」を、小・中一貫して積み重ねるとともに、働くことと自己とを関連付ける手だてとしての事前・事後指導を充実させることで、子どもの自己表現への意欲を高めることができることを示しています。

各学校では、これらのモデルプラン等を参考にして、発達段階に応じたキャリア形成を図る指導計画を是非作成していきたいものです。

作成に当たっては、①現在行っている教育課程をキャリア発達を支援する視点から見直し、②内容を系統立て、教科・領域の目標を関連付け、③学校外の人材や組織・機関、他校種との連携を積極的に取り入れた活動を導入し、再構築することが大切です。

子どもたち一人一人が自己のよさや可能性に気づき、夢や希望をもち、生涯に渡ってたくましく自己実現に向けて努力を続ける意欲・態度や能力を伸ばすことができるキャリア教育を進めていきましょう。

『学校力が上がる 教師力が伸びる』(教育新聞社)は、一般の書店では販売していません。内容や購入希望については、広島市教育センターまでお問い合わせください。

(担当：大下主任指導主事)

New! テレビ会議で学校間交流に取り組みませんか

今秋、市立学校ネットワーク（ピジョンネット）がリニューアルされ、各市立学校でこれまでより簡単に高画質・高音質なテレビ会議を行うことが可能となりました。このシステムを使った、学校間交流等に取り組んでみませんか。

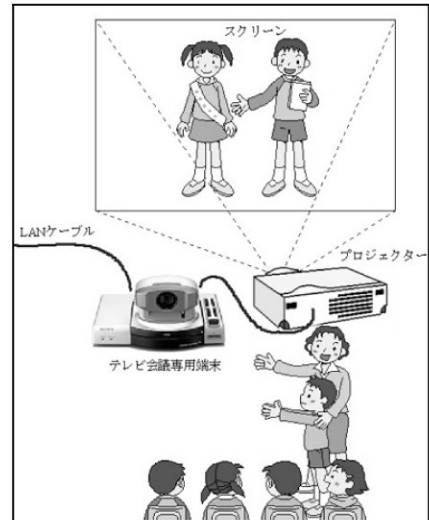
新テレビ会議システムの概要

これまでのテレビ会議システムでは、Webカメラをコンピュータに接続し、小さな、低画質の画面でのテレビ会議を行っていました。

新しいテレビ会議システムでは、右図のように、「テレビ会議専用端末」を使って、こま落ちの少ない高画質のテレビ会議を行うことが可能です。このテレビ会議専用端末を使うと、相手先の番号をリモコンで指定し、電話をかける感覚で相手方とテレビ会議の接続を行うことができます。

〈その他の特徴〉

- ・ 1対1のテレビ会議だけでなく、最大5地点の学校を同時接続し、テレビ会議を行うことができます。
- ・ 市立学校間のテレビ会議はもちろん、ネットワークのマッチングがうまくいけば、県内外の学校及び大学や科学館等の専門機関とのテレビ会議を行うこともできます。



テレビ会議システムの活用効果

テレビ会議には、従来なら教室の中だけで完結することの多かった学習空間を広げ、他の地域の人たちと共通の話題でかかわることを通して、学習集団を広げることができるという特徴があります。このことから、子どもの学習に次のような効果が期待できると考えられています。

- ・ 新しい人との出会いや、新しい体験をすることで学習意欲を高める。
- ・ 交流の中で物事の多様性に触れることで、子どもの視野を広げ深める。
- ・ 相手の言いたいことを聞き取り、こちらの伝えたいことを明確にして、テレビ会議という限定された環境の中で伝える工夫をすることで、子どもの表現力を育成する。



テレビ会議に必要な機器を貸し出し、実践のサポートを行います

教育センターでは、新しいテレビ会議システムで使用する「テレビ会議専用端末」を18台準備しています。システムの利用を希望する学校には、右の物品の貸し出しを行います。各学校では、プロジェクターやスクリーンなどの準備が別途必要となります。

教育センターでは、「コンピュータ操作が苦手なので、テレビ会議には興味があるけど実践の自信がない。」「テレビ会議をしたいけれど、交流相手が見つからない。」「テレビ会議を行う手順がわからない。」などの不安を解消するために、実践のサポートを行います。ご希望・ご質問などがありましたら担当までご連絡ください。

これまでのテレビ会議システムを使った実践事例は、教育センター内部Webページにて掲載しています。

(<http://192.168.9.12/material/file/tvmeet/h16/menu01.html>)

(担当:岩田指導主事・高田指導主事)

教育センターから貸し出す物品



テレビ会議専用端末 (PCS-1600) マイクロホン

教材研究は教育センターで！ 授業づくり支援室(1)(2)で
指導主事等の支援を受けながら教材研究等ができます

こんな時は、事前に教育センターにご相談を！

教材研究
をしたいけど自分のテーマに合う
文献が見つからない。参考文献を
紹介してほしい。

教材づくり
をするために、道具やアイデアの
支援をしてほしい。また、他校の
先生と作業する場所がほしい。

指導案作成
を先行実践等を参考にしながら
行いたい。また、よりよい指導
方法があれば教えてほしい。

授業づくり支援室(1), (2)で活用できるもの
学習指導案, 二学期制用のよい子のあゆみ, 年間指導計画,
年間学習計画(シラバス), 平和学習年間指導計画, 教育雑誌,
全国大会等の研究紀要, 教育委員会刊行物, 授業ビデオ,
エルネットで配信された講習会等のビデオ, インターネット等
(図書資料室には, この他にもたくさんの教育資料を揃えてい
ます。併せてご活用ください。)

例えば…

- 小学校体育科コーナーを
設けています。
学習指導案と授業ビデオ
がセットになっています。授
業の進め方, 教具の活用の仕
方のイメージがつかめます。
是非, ご活用ください。

**授業づくり支援室(1), (2)のご利用及び指導主事等の支援につ
いては、遠慮なく担当にお問い合わせください。**

(担当：清水指導主事・胤森指導主事)



「情報セキュリティ」とは 情報管理は大丈夫ですか？

コ ラ ム

「情報セキュリティ」という言葉が教育現場においても注目され、関心が高まっています。学校内では、指導要録、緊急連絡網、通知票、テスト類、児童生徒の作品、健康診断票、卒業生名簿、職員名簿等の個人情報、電子データや印刷物等様々な形態で作成・管理されています。これらの情報が、一定のルールに従って正しく管理されていることを意味する概念が「情報セキュリティ」です。「情報セキュリティ」には次の三つの要素があります。

- 機密性・・・秘密にしたいことが守られていること(他者に情報が漏れない)。
- 完全性・・・情報が改ざんされたり、処理結果に誤りが発生したりしないこと(いつも最新の正しい情報)。
- 可用性・・・使ってよい人が、使いたい時に確実に使えること(いつでも欲しいときに情報が得られる)。

これらの三要素を維持していくためには、校内にある情報を安全に管理し、危険や問題への対策を継続的に講じていくことが必要となってきます。

それでは、次の事例は、「情報セキュリティ」のどういった点において問題なのでしょうか。

- ① 業務で使用するパソコンに、ウイルス対策ソフトを導入していない。
- ② 個人的な判断で可搬記録媒体にデータのコピーを作成し、自宅に持ち帰った。
- ③ 誤操作によってデータを消去してしまったり、天災や事故によりデータを消失してしまった。
- ④ 情報(紙・電子媒体)の保管場所が決められておらず、各自が保管している。



①から④それぞれの行為や管理の仕方が、「情報セキュリティ」のすべての要素を脅かす原因となっています。一つの行為によって、三要素のすべてが危険にさらされるのです。特に、個人情報の漏洩によって機密性に問題が生じた場合には、当事者だけでなく組織として多大な社会的責任を負うことになります。

学校ではすべての教職員が個人情報を作成し、取り扱っています。今後ますます取り扱う情報量が増大し、より適切な取り扱いをすることが求められていきます。校内研修等を通して、「情報セキュリティ」を維持していくための意識を高め、個人だけではなく、学校としての具体的な対策を講じていきましょう。

個人情報とは・・・
生存する個人に関する情報
であって、当該情報に含まれる
氏名, 生年月日その他の記述等
により特定の個人を識別する
ことができるもの

教育センターひろば

指導主事研究の紹介

今年度、教育センターでは、研究協力校や研究協力員の先生方に協力をお願いし、以下の三つの研究に取り組んでいます。

研究主題	
担当指導主事	研究のねらい
人材育成に関する 学校マネジメントの在り方に係る研究	
藤村 和彦 土井 延久 正原 直行 清水 剛	教師にとっての成長は、教育実践の蓄積や各種研修の受講、文献等を読む等の自助努力等によって可能であるといわれています。本研究では、校内研修（授業研究）に視点を当て、学校における教師の人材育成の場、つまり「教師の学び」をどのように形成していけばよいのかを追究していきたいと思えます。

教育用コンテンツの 開発・作成に係る実践研究Ⅳ

住吉 磨 岩田 浩一 高田 尚志	情報機器等を教材研究や指導の準備段階に活用するため、小学校理科・小学校体育科・特別支援教育の教育用コンテンツの開発・作成を行います。理科では、薬品の扱い方や実験の技能を高めるコンテンツを、体育科では、跳び箱運動・マット運動の技のポイントや補助運動のコンテンツを、特別支援教育では、個別の支援計画の作成に係るコンテンツを年度末に内部Webページで公開する予定です。
------------------------	---

指定都市教育研究所連盟の共同研究（第15次共同研究） 今を生きる子どもたちの姿や思いを探る -学校・家庭・地域社会における生活や学習の継続調査を通して-

大下 恵子 胤森 裕暢	第14次共同研究での調査結果との経年比較から、子どもたちの実態や意識の変化を明らかにし、学校・家庭・地域社会の子どもたちへのかかわり方、三者の連携の在り方等について提言をします。年度末には、調査の集計結果を公表し、各学校・園の学校評価等に活用いただけるようにする予定です。
----------------	--

研修講座の紹介

教育センター主催の研修講座(11月実施)を紹介いたします。受講希望の方は担当までお問い合わせください。

ひろしま理解講座

テーマ：わたしのひろしま見聞録
～アナウンサーの仕事振り返って～
講師：井尾 義信 先生（元RCCアナウンサー）
日時：平成19年11月29日（木）15時～
場所：こども文化科学館アポロホール
(担当：岩田指導主事)

井尾 義信 先生のプロフィール

大分市から広島に大学に進学後、中国放送（RCC）に入社。アナウンサーとして活躍されました。主な担当番組は「井尾義信のコーヒータウン」「おはようサタデー」など。現在、広島県教育委員会「ことばについて考える100人委員会」アドバイザーとして広島県各地でご講演されています。

研究員

現在、教育センターでは、次の11名の先生方が、研修に励んでおられます。（後期：平成19年10月～平成19年12月）

岩澤 弘次郎	(仁保小学校)
岡崎 禎子	(庚午小学校)
長岡 正敏	(安東小学校)
上本 公次郎	(原小学校)
山崎 由香	(五日市中央小学校)
八松 泰子	(中広中学校)
山村 保古	(安佐中学校)
瀬川 啓子	(東原中学校)
高岡 秀文	(沼田高等学校)
大田 恵子	(緑井幼稚園)
岩本 弥和	(落合幼稚園)

編集後記

夏期休業中にはたくさんの先生方が教育センターの講座を受講してくださいました。今後も、みなさまの研修・研究等のお役に立てるよう努力していきます。講座のみならず、授業づくり支援センター、内部Webページも是非ご活用ください。

編集・発行／広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号

TEL (082) 223-3563

FAX (082) 223-3580

E-mail:

center@edu.city.hiroshima.jp

外部Webページ:

<http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/>

内部Webページ

<http://192.168.9.12/>